



新春特別インタビュー

在広州日本国総領事館 石塚英樹総領事

心と心の交流で日中関係はさらなる発展へ

日中平和友好条約締結 40 周年を迎え日中関係が大幅に改善した 2018 年を受け、新しい年には
会員企業の皆様の当地でのビジネスにも、さらなる飛躍が期待されます。新春特別インタビューとして、
石塚英樹・在広州日本国総領事にお話をお伺いしました。

— 広州に着任されたご感想は？

石塚総領事（以下、石塚） 2018 年 9 月末に、瀋陽から
広州へ着任いたしました。こちらに来てまず感じたのは「中
国は非常に大きい」ということです。

瀋陽も独自の街の歴史、文化がありましたが、広州はそれ
とは全く違った文化、そして街としての顔立ちがあります。

着任時、広州の空港から市内に向かう際、高速道路には
南国らしいヤシの木があり、緑化が進んで大変美しく、と

でも開放的なところだと思いました。そして、総領事館があるガーデンホテルの近くに車が近づき、商店や人々が間近に見えた時、この街の活気、勢いを感じました。

この「勢いがある」という感想は、最初は感覚的なものでした。しかし、着任後、実際に広州、そして広東省のいろいろな都市に出張するにつれ、この地の発展の勢いをますます強く実感するようになりました。

——総領事館業務の重点は？

石塚 総領事館の本務は「領事事務」。「領事事務」とは、こちらに在住する日本人の皆様には旅券発行等の行政サービスを提供すること、同時に中国人、また外国人の皆さんに対して日本の査証を発行すること等を指します。総領事館として、まずは領事事務にしっかりと取り組んでいきます。また、私も着任以来、各地の政府幹部の方とお目にかかる際、つねに進出日系企業や在留邦人に対する「合法的権益の保護」をお願い申し上げております。総領事館として、邦人保護に関してもしっかりと行っていきたくと思います。

領事事務と同様、非常に重要なのは、進出日系企業への支援です。広東省には約1,640の日系企業が進出しています。これら企業の皆様に対して、総領事館として、情報提供し、一緒に問題点を考え、また必要な際には関係当局への申し入れを行う、というのが総領事館としての義務であると考えます。

三番目に挙げたいのは、日中交流の促進です。文化交流や地方友好都市の交流を含めた当地と日本との相互理解のための様々な活動を積極的に進めていきたいと思えます。

——広東省は、中国において、また日中関係においてどのようなエリアであり、またどのような役割を果たしているとお考えですか？

石塚 広東省は日中関係の中でも、特に経済面で極めて大きな役割を果たしている地域だと思います。

同省GDPは約8兆円で全中国の約1割を占め、中国の

省としてトップの規模。貿易面でも中国全体の輸出額の約4分の1が広東省からとなっています。日本にとっても、貿易額の約22%が広東省との貿易によるものであり、日中経済関係において広東省は極めて重要な地域であるということは、日本でももう少し知られていいのかなと思っています。

広東省の経済は、規模が大きだけでなく、いろいろな意味で伸びていることも注目に値します。同省の経済成長率は高い水準で推移しており、日本からの投資も2017年は大幅に増加。契約額は前年比5.22倍となる約18億4,900万米ドルでした。特に大規模投資が多く行われ、投資件数は64件と前年比73%増になっています。私が着任時に感じた広州という街の「勢い」同様、広東省の経済は成長し動きつづけています。この成長の勢いというのは、非常に重要なものだと感じています。

さらに、広東省と香港・マカオの協力強化を推進する広東・香港・マカオグレーターベイエリア（粵港澳大湾区）協定が締結されたことで、広東省経済の発展は、その規模と勢いに加え、時間的な継続が期待できるようになりました。現在、香港の在留邦人数は約2万5,000人、広東省は約1万9,000人で、同省は華南地域において香港に次ぐ大きな日本人コミュニティが存在するエリアとなっています。

——日中関係について、どのようにお考えですか？

石塚 2018年は日中関係にとって、非常に実りが多い年でした。日中平和友好条約締結40周年という年において、李克強総理が訪日され、安倍晋三総理が訪中するという首脳相互訪問があり、大変有意義な年になったと言えます。

外交関係が改善すると経済にも必ずプラスの影響が出るものです。今回、それぞれの会談の成果として、私が非常に重要だと思うのは、イノベーションと知的財産についての日中対話の立ち上げ、金融協力の強化に関し、意見の一致を見たことです。今後の日中経済協力を考える上で、知的財産の保護、金融面での規制緩和はとても重要な要素。この成果について、さらなる発展をここ広州で見守っていきたくと思います。

——在広州日本国総領事としての抱負をお聞かせいただけますか？

石塚 日本と中国の協力関係は、心と心の交流があれば、巨大な発展の余地がある——これは私が常々申し上げていることです。まず相手の話を聞いて、それから自分の考えを丁寧に説明して、ミスコミュニケーションを防止すれば、外交、ビジネスともにいろいろなことが実現できます。これからも、総領事として積極的に当地の中国側指導者や政治、経済、文化等あらゆる方面の方と交流を行っていきたくと思います。さらに、在留邦人の皆様とも交流して、お互い理解を深めたいと考えています。

昨年11月28日には、天皇誕生日レセプションを開催



いたしました。同レセプションでは、広州日本商工会、ジェトロ、日本の地方自治体の皆様がブースを出展し、日本酒や食品、化粧品サンプル配布などで会を盛り上げていただきました。皆様のご助力を得て、盛会のうちに開催することが出来たことを、厚く御礼申し上げます。

同レセプションには、私が着任後広東省各地、さらに福建省、海南省へ出張し、ご縁を結んだ政府、経済、文化関係者の方々が多数ご参加くださいました。広西チワン族自治区からもご参加をいただきました。参加人数は600人を超え、これまで当館が行った同レセプションで最大規模になりました。

着任後2ヶ月という立ち上がりの時期でしたが、私が訪れた各地から多くの皆様にお越しいただき、大きな手応え

を感じました。外交努力で目に見える結果が出たということは、非常にありがたいことです。引き続きこうした「心と心の交流」を積極的に行い、さらにその成果を日系企業の皆様とシェアしていきたいと思えます。

——当会会員へのメッセージをお願いできますでしょうか？

石塚 広州日本商工会は非常に活発な活動をされており、大変素晴らしいと思っています。総領事館としても是非商工会活動を全力で支えたいと思います。日頃大変お世話になり感謝申し上げますとともに、引き続きよろしくお願ひいたします。是非皆様と一緒に、当地日本人社会を盛り立てていきたいと思えます。

<ご本人について>

——中国との関わりは？

石塚 外務省入省後、中国語研修を命じられ北京大学へ留学後、在中国日本大使館で勤務しました。その後、在外勤務としては2016年2月から瀋陽総領事として、2年7ヶ月勤務いたしました。そして、2018年9月、広州へ着任してまいりました。

中国への興味は学生時代から持っていました。中国の古典や文化に関心があり、外務省に入省する際も中

国関連業務を希望しました。

——広州でプライベートでやってみたいことは？

石塚 私の趣味は書道と漢詩をすることです。瀋陽では、書道の個展を開き、美術雑誌でも特集が組まれました。自作の漢詩集も出版し、中国の同好の皆さんと交流をしまりました。広州でも引き続き、このような個人レベルでの文化交流にも取り組んでいきたいと思えます。



石塚総領事の書道作品が掲載された中国の美術雑誌（右）と中国の作家と共著で出版した漢詩集